

横浜市戸塚区民文化センター さくらプラザ 情報誌

SAKURA

Since 2013



Vol.21
1・2月号

私は、「わたし」に会いにゆく。さくらプラザで、逢いましょう。



Grace Mahya

音楽を通して愛と喜びを運びたいー

== INDEX ==

Pick Up Artist **Grace Mahya**
橘家文蔵
柳家小せん

さくらプラザ館長の『東へ西へ』

さくらプラザ自主事業レポート

親子ふれあい 歌あそび&パネルシアター
PIANO 楽しみ方講座/かわいいキャンドルづくり 他

連載

戸塚出身!ソプラノ歌手 市原 愛の「歌の翼に」
出張! THE LEAPS の行ったるチャン!
さくらプラザ User's Voice
男は背中で物語る 戸塚見返親仁
出張! 戸塚新聞



ピアニスト兼シンガー
グレース マーヤ
Grace Mahya

音楽を通して愛と喜びを運びたいです♪

私(板澤)がGrace Mahyaと出逢ったのは、約20年前。

音楽教室が一緒で、当時週8日一緒に過ごしていた。と笑い話にするくらい付き合い!

彼女がドイツに旅立つ日、空港でなかなか離れられなかったのを今でもよく覚えています。それからは連絡が途絶えていたのですが、今から5年前程、新聞で紹介されていたのを見て、ライブを見に行き、久しぶりの再会を果たしました。

ぜひさくらプラザで公演を!と話をしたところ快諾いただき、2017年3月24日の公演が決定しました!

そんな彼女にクラシックからジャズに転向したきっかけ、そして「JAZZ NIGHT with Grace Mahya & 渡辺裕之」公演について伺いました。

—クラシックからジャズに転向したきっかけは?

もう本当に偶然!

2003年、留学していたドイツから一時帰国した時に、仕事をしないといけないと思い、飛び込んだのが、偶然ジャズクラブ(笑)。

お店の人から「演奏履歴はわかったけど、ここジャズクラブだよ?」って言われたんだけど、何もわからなかったから「はい! 大丈夫です! クラシックやっていますから。」って答えちゃって。

そうしたら「今日ピアニストいるから、何か歌える?」って聞かれたから、

「はい! 何歌ったら良いですかね?」

「なんでも良いよ? 枯葉とかは?」

「聞いたことないです…」

「じゃあ、サマータイムは?」

「知らないです…」

「あなた本当にジャズやっているの?」

「はい!」

嫌な雰囲気になってきちゃった時、幼い時に母親が良く聴いていたオールディーズのカセットを思い出して「テネシーワルツ」をステージで歌ってみたの。

もちろん昔聴いていた曲とは違うから、「みんな何やっているんだろう?」って聞いていて、コードを繰り返しているのはわかってきたんだけど、でも何を元に弾いているのかはわからなくて。



「とりあえずグルグルしてるんだ。でも、私どこに入れていいんだろう。」と思っていたら、ピアニストが合図をしてくるから、「今ね!それもサビから入るのね!」って感じ(笑)。

びっくりしたことに、それを聴いていた違うクラブの人が次々にスカウトしてくれて、ジャズの仕事をすることになった。

「テネシーワルツ」と「ケ・セラセラ」の2曲しか歌えないのにね(笑)。

それまでは、ピアニストだったから「シンガーのマーヤさんです!!」って紹介されてもすぐに反応できなかったけど、1年くらいして、本当にシンガーでデビューすることになったの。

—そんなに何もわからない世界に飛び込んだけど、楽しかった?

もう最初のステージの時に、決めたの! 「何、この自由? 私、これじゃん!」って。

それまで、日本にいてもドイツにいても周りと違って浮いている感があった。特にクラシックの世界では。クラシックコンクールで賞をもらって、それで続いってきたところがあったけど、なにか違うと自分でも薄々感じていて、それで留学をしたけど、それでも同じだった。



JAZZ NIGHT ベースで出演される楠井五月さんとのデュオ

そんな時にジャズと出逢ったから「これだ!」って。自由だけど、なんでも良いわけではなくて、コードを追及し尽くしてだから、すごくおもしろいし、完璧。クラシックのようにハーモニー、リズム、をすごく勉強しているのがありつつ、自由。

それが魅力ですぐはまったよ。それで、一時帰国の予定が、もうドイツには戻らなかった(笑)。

なんで、もっと早くジャズに出逢えなかったんだろうね。ジャズは自由がありすぎて難しそうなイメージがあって、そこがクラシックの人が陥るところかな。でも私には、性格的にすごく合っていた。

ヨーロッパでの仕事で13年ぶりに今年の夏にドイツに遊びに行ったよ

ドイツにいる友達はびっくりしてたっていうか、もう、泣いちゃって(笑)。日本に一時帰国しただけだったのに、戻ってこなかったってね。

—ライブの時には、事前にこんな曲をやろうと、メンバーで相談するんですか?

まったくしない(笑)。

3月の公演プログラムを…。って言われるのが、一番難しいかも!

今考えていても、「春だし…変えよっか?」ってなっちゃう。あとは、来てくださるお客さまの様子で考えるかな。

でも、思い出の曲だから「テネシーワルツ」は歌いたい♪ジャズを良く知っている人が「良いね!」って言ってくれる曲、ジョン・コルトレーン、マイルス・デイヴィスとかも入つつ、良く知られている曲、ブルース、いろいろなジャンルをお届けします♪

—ありがとうございました!

(取材・文: 板澤 桂子)



楠井五月(B)・Grace Mahya(Vo.Pf)



We are waiting for you!
Love you Mahya



Grace Mahya (ヴォーカル・ピアノ)

3歳からクラシック・ピアノ、ヴァイオリン、バレエを習いはじめ、4歳で初めてのピアノ・コンクール入賞。9歳で夏期留学したパリではピアニスト、ルセット・デカーブ氏に師事。日本語、英語、ドイツ語、フランス語に堪能で、1997年にはドイツに留学。トップの成績で入学したドイツのフライブルグ国立音楽大学ピアノ部門卒業後、2001年、大学院に進学して音楽研究の研鑽を積む傍ら、コンサート活動を続ける。2003年帰国後は、ジャズ&ブルースをルーツにする実力派ピアニスト兼シンガーとしてライブ活動を国内でスタート。愛くるしいキュートなルックスと持ち前の親しみやすいキャラクターで、忽ち人気者となる。また、低音の魅力を発揮したセクシー・ハスキー・ヴォイスは多くのファンを魅了している。

JAZZ NIGHT with Grace Mahya & 渡辺裕之

2017年3月24日(金)19:00開演(18:30開場)

全席指定 一般 3,000円

ペアチケット 5,000円

※さくらプラザのみ取扱い・2枚同時購入時のみ



2017年1月12日(木)「新春さくらプラザ寄席「泣く落語」～其の四 八五郎出世～」にご出演いただき、橘家文蔵師匠と戸塚区出身の柳家小せん師匠にお話を伺いました。文蔵師匠は2016年9月に「三代目 橘家文蔵」を襲名されたばかり。お話を伺いに行ったこの日は50日ある襲名披露興行の49日目という、お忙しい中でのインタビューでした。そして前号にも登場していただいた戸塚区の皆さまにはお馴染みの小せん師匠も再び登場!

—このたびは襲名、おめでとうございます。襲名されて心境の変化はありますか?

橘家文蔵(以下、文蔵):別に名前が変わったからってやることが変わるわけでもないし、根性が変わるわけでもない。ただ、名前を襲名したっていうんで今までやってきた“サブトータル”っていう気持ちでやっています。

—先代の文蔵師匠に入門したきっかけは?

文蔵:客席から見てこの噺家は「派手さはないけど基本に忠実なんだなあ」「何か教わるならこの人がいいなあ」と思いました。

—お名前が4回変わっているということですが、これは多いことなのでしょうか?

柳家小せん(以下、小せん):順当といえば順当ですかね。前座から二つ目、二つ目から真打で、変わることの方が多いな。それが普通のことなので。真打になるときに変わってそれが最後って場合がほとんどですね。そこからまた襲名っていうのは、そういうことができるだけの状況と実力が揃わないと、なかなかやらないですね。

—プライベートではバンドもされていますね。小せん師匠も一緒に。

小せん:扇辰師匠も一緒です。ちょうど3人が揃ったというか、私の好みで勝手に揃えちゃいました。ゴリ押しですけど(笑)。



三代目 橘家文蔵
(2016年1月新春さくらプラザ寄席公演写真)

文蔵:趣味の延長ですかね。
小せん:それ以外にパンクバンドも。
文蔵:ちょっと休んでますけどね。落語って意外とストレス溜まるんだよね。ストレス解消の為に息抜き。息抜きがまたマジになってきちゃって(笑)。
小せん:それがまたストレスなって……(笑)。

—お二人の共演はもう何度もされていますか?

小せん:色んなところで出させてもらいますね。兄さん(文蔵師匠)がメインのところ誰に出てもらおうかってなったときに“仲が良い”っていう理由で呼んでもらえることが結構ありがたいですね。今回の襲名お披露目のときも、一門でもないんだけど前方に入れていただきました。

—小せん師匠から見て、文蔵師匠はどういったお方ですか?

文蔵:本人目の前にして(笑)。
小せん:こう見えて結構、甘えん坊だったりしますね(笑)。あと後輩を生かすような形で色んなことをやっています。高座ももちろんやるし、バンド、コント、芝居、大喜利とか色々やります。そこに一緒に加わらせてもらって、凄く良い経験させてもらってますね。
文蔵:みんなで何かを拵(こしら)えるときって面白いんですよ。噺家は個人稼業なので。ひとりで作業するばかりじゃなくて、たまにはみんなでワイワイしながら拵えることも息抜きにもなりますね。でも、やるからにはちゃんとやります。
小せん:時には怖いこともありますけどね(笑)。でも兄さんの気遣いと細やかさと優しさでそこは安心です。

文蔵:人に厳しいんですよ。
小せん:それ大事。
文蔵:人のこと、棚にあげるの大好き。
小せん:なんだかんだ聞くと、やらしい(笑)。「良い人とか言われると商売に障るからやめてくれ。」って兄さんに言われますけどね(笑)。

—そうなんですね(笑)。本日はありがとうございました。
(インタビュー・文: 田中啓介、石村里美)



『新世界音楽祭三連作』 画/ROCCO SATOSHI(ロコ・サトシ)

クラシック音楽は古典のみにあらず! 今回は現代音楽について、作曲家・ピアニストの加藤昌則さんと対談。さらに、ウォールペイントアーティストであるロコ・サトシさんにも立ち会っていただき、その時の様子や、対談を聞いて感じたことをドローイング作品にさせていただきました。

—最初からみんなベートーヴェンをすぐ解ったわけじゃない。

田中啓介(以下、田中):今日は、「現代音楽は難しいのか?わかりやすいのか?」というテーマで進めていきたいと思いますが、加藤さんはどうお考えですか?

加藤昌則(以下、加藤):難しいです。

田中:難しいですか……。

加藤:それはやはり難しいと思います。

作曲家が何を求めているかという、今まで誰もやったことのない自分の音、あるいは音楽を探すわけじゃないですか。誰も言ったことのない言い回しにしたものを、それを最初から理解するのは難しい。でも結局時代はそうやって来たんですよ。最初からみんなベートーヴェンをすぐ解ったわけじゃない。あの時代にしては、あの言い回しはすごく遠回しだったりとか……。だんだんに耳馴れるうちにそれが“古典”になっていったということからすれば、「現代音楽が難しいか?簡単か?」といえば、それは難しいのだと思う。けれど、時代が経っていくうちにそれが古典になる可能性っていうのはもちろん持っているわけで……。という話です。(笑)

田中:とくに20世紀にそういった“難しい現代音楽”が生まれたということですか?

加藤:僕たちが今解りやすいと思っている音楽は、“調性の音楽”だと思うんですよね。喜怒哀楽とか、感情を表現するもの。それが20世紀の初頭くらいから、音楽では表現主義という、恐怖だったり、グロテスクなものだったり、今までの音楽が表現していない方向に……。

それまでの音楽というのは、ものすごくシステマティックに、調性だったり、この和音の次にはこの和音がこないといけないう、伝統的に積まれてきた理論みたいなものがあった。それを新しい表現の為に調性を放棄するという手段を選んだ時に、そうした調性の理屈のようなものがなくなってきたから、作曲家は自分の感覚や感情に委ねて作曲することになったけれど、それは耐えられないくらい心細く、説得力を欠くような感覚におそわれて、長い間培われてきた調性の理論に代わるような新しい理論を求めた。そして生まれたのが12音技法。

そこを出発点に作曲家がいろいろ考え出したのが現代音楽の始まりなんですよ。だから、現代音楽が生まれた理由自体は非常に論理的なんです。



一聴衆がどうのじゃなく、自分の興味がある方向にのめり込んでいった。

田中：加藤さんが「ブーレーズ(※1)は作曲家側から見るとすごくわかりやすい」というのは、その理論の中で組み立てられているからでしょうか？

(※1 ピエール・ブーレーズ/1925~2016フランスの作曲家・指揮者)

加藤：そうです。全部その理論で説明が出来ます。どうしてこの音がここでこののか、というのは、こうこうこうでこうだからそれはこの音なんです、という説明がつく。シェーンベルク(※2)の音楽もそうですけど、説明がつくんです。

(※2 アルノルト・シェーンベルク/1874~1951オーストリアの作曲家・指揮者・教育者。のちにアメリカに亡命。12音技法の創始者。)

田中：その説明がつくものが、一方では人々の感情から乖離(かいり)してわかりにくくなったということがわからないな、と思っています……。

加藤：その理屈というのが非常に理路整然としているから、作曲家としては非常に説得性のあるものだと思う。しかも、理論を応用することによって、発見できない音の組み合わせを見つけることができるようになった。誰も使ったことのない言葉を見つけようとするのが作曲家の欲求だとすると、それってすごい魅力の世界であって、「この理屈、この理論にしたらどうだろう」「これって誰もやってないことだ」と思ったら、まったく違う音が生まれてくると思うんです。その欲求をどんどんどんどん満たしていったというのが本当のところなんだと思う。だから、聴衆がどうのじゃなく、自分の興味がある方向にのめり込んでいった、ということ。結果それがあまりに急速すぎて、聴衆は離れていかざるを得なかった、ということなのではないかな、と思います。

一緒に悲しみたいとか、一緒に喜びたいとか、そういう意味で音楽を聴いている人たちにとっては、たぶん、20世紀現代音楽の世界は全く意味のわからないものになる。

田中：ブーレーズを聴いてみたんですけど、すごくわかりやすいな、と感じました。

加藤：さすが！館長！！

田中：感覚的に何か表現したいと思っているものが、すごく伝わってくる。逆に、マーラーって、表面的に描かれているものはすごくわかるんですけど、その奥にあるものは全く見えない。単なる聴き流す音楽としては良いけれど、自分自身の中に落とし込んでいく音楽としては、ブーレーズの方が非常に説得力がある。微妙な不協和音や、間がすごく日本人向きで……。日本人って、そういう無音とかに何か意味を求めないじゃないですか。それがすごくわかりやすい、と私は思ったんです。ある意味、彼の生理が、人間の根本的な生理に近い。それをいわゆる調性とかに当てはめてない分、ダイレクトに伝わるものが多い、と感じたんですね。

加藤：とくに田中さんの音楽の聴き方が、ある種の感情を表出するものじゃなくて、音で作る空間だったり、もっと違うところに興味やアンテナが張りだしたということなんだと思う。つまり、一緒に悲しみたいとか、一緒に喜びたいとか、そういう意味で音楽を聴いている人たちにとっては、たぶん、20世紀現代音楽の世界は全く意味のわからないものになるんだと思う。例えば映像に乗っかってたりすると面白いのかもしれない。そういった何か助けになるものがなく、その空間をただ聴覚だけで感じるということは難しいのかな、と思います。

田中：音楽から聴き取るものが違うのであって、むしろ現代音楽のほうがわかりやすいのかもしれないですね。

ところで加藤さんの作っている曲は、どちらなんですか？

加藤：うーん。それはすごく難しい質問なんですけど、端的に答えるならば、10年くらい前までは多分“共感したい”という気持ちが自分の中にあった。ブーレーズが京都賞(※3)のインタビューで“理解してもらいたい”と言ったのと同じ思いが強くありました。でも最近は全く無いですね。逆に、理解できなくて良い。自分が自分の中で自分としていきたい世界を見つける方に実は関心がある。でも今は自作自演で演奏もするから、20年前の曲を弾かなきゃいけない。その時がつらいです(笑)。本当に結構つらいですよ。

(※3 科学や文明の発展、また人類の精神的深化・高揚に著しく貢献した方々の功績を讃える国際賞。ブーレーズは2009年に思想・芸術部門を受賞した。)



一聴いていると聴きやすいけれど、演奏するとすごく難しい。

田中：でも10年前に作曲された「祝〜おとほぎ〜(※4)……(笑)。あれも結構意地悪な曲ですよ。

(※4 栄区民文化センターリリスで当時館長をしていた田中が委嘱した作品)

加藤：意地悪ですね。ただあれも、最初は聴き手を意識していたんですよ。でも、音楽の場合は演奏する人がいる。だから聴衆に届くまでにもうひとつ媒体がある。この演奏する人を虜にする様な、夢中に、興奮させる内容にしたら、聴衆はその音楽を面白いと思ってくれたりするんです。だから、演奏者を魅了しないことには、現代音楽の曲って世に出ていかないって思っていた時代。聴いていると聴きやすいけれど、演奏するとすごく難しい、というようなことは結構考えていた。心理的なところですね。

田中：非常に微妙なリズムというか、入り方が難しい。

加藤：そうそう。

田中：そこの拍から入るの？みたいなね(笑)。

加藤：そう！でもそうすると、そこの音は絶対緊張感のある音になるでしょ？

田中：そうですね。では今は……？

加藤：もちろん技術として“演奏者のいい意味でのコントロール”ということを利用することはあります。けど今はむしろ自分が居たい世界を作る方に興味がある。そういう世界に浸りたいなと思ったら、本当に自分のやりたいものを作る。例えば『さくらさくら』を入れたら聴衆は満足するだろう、じゃなくて、その『さくらさくら』というものが、自分にとってああいうサウンドで来たら気持ちいいよな、というように、もうそこしか考えていない。という感じがな、今は。

一その場所で、生で聴かないと伝わらない。

田中：結局現代音楽ってわかりやすい方にきているのでしょうか……。

加藤：今、さくらプラザホールに音楽を聴きに行くってことすら、日常の中に必要とされなくなっている風潮はありませんか？全部、パソコンやスマホで満たされちゃう。本当は満たされていないんだけど、すべての情報は得られるし、自分の要求するものが全部機械の中で達成されちゃう感じがある。そうなってくると、今音楽を生み出している僕としては、とくにクラシック音楽の場合、ホールなどで演奏するのは、必要なのかな？といつも考えてしまう。いや、必要なんです。絶対に必要です。パソコンやスマホは生の演奏とは違うものなんです。と僕は思うけれど、「これは違うものだ。」ということの説明するところから始めないと、今は完全に機械に吞まれているから……。

田中：そう。その辺を、ブーレーズは京都賞のインタビューで、「エンターテインメントとカルチャー」と言っているんです。エンターテインメントというのは、とても論理的で通俗的なものだけれど、そこで終わってはいけない。創造というのは、もう一段階上で、自分を表現しないといけない。多分エンターテインメントって、パソコンやスマホで満たされるんですけど、その一歩上のところは、その空間に居ないとわからない。演奏している映像を見ても、全く伝わってこないんです。聴衆の拍手に映像だと全く共感できない。それはやっぱり、その場所で、生で聴かないと伝わらない。パソコン・スマホで済んでしまうものが増えすぎているというのもあると思います。だからこそコンサートホールなど、聴く場所が必要なんだと思います。

加藤：もしかしたら、「エンターテインメントとカルチャー」って、ある種、カルチャーが、エンターテインメントと結びつくようなアイデアを持っていないと、生き残っていくことが無理かもしれない、というところまでカルチャーの立ち位置が下がってきている気がします。そういうのはある気がします。今までのような意味で「カルチャー」と主張しても、それこそ「ガラパゴス化」的な感じになってきちゃうのかなあ……。

一それが「いかに良いものか」ということを訴えていかななくては行けない。

田中：そんな中で、今後加藤さんの音楽はどうなっていく？

加藤：うーん……。残念ながら生でしかクラシック音楽の良さはわからない。なぜなら、クラシックの楽器は電気を通さないから。その音だけの響きでやるためだけに書かれているものだから。だから、それは生でしか味わえない。その音楽を自分は一番好きでやっているから、それが「いかに良いものか」ということを訴えていかななくては行けない。そういう宿命を持っている。だから、そういう音楽をやっつけていかななくては行けないな、とは思っています。



田中：作曲する時にもそういう想いがありますか？

加藤：生の楽器で演奏されるものだから、その楽器の本来の良さを出そうと思って書いてはいるんですが……。でも「生の音楽が良いんだよ」ということのために書いているかという、作曲に関してはちょっと違うかもしれない。むしろ作曲は、「自分の求めたいものを求めて書く」ということに尽きる。「生で聴くのが良いんだよ」というのを知らせるとしたら、それは演奏する時や自分がトークしたりする時です。その時にはもちろん実証しようとはします。

田中：それは、ブーレーズとか、ジョン・ケージ(※5)が表現しようとしたこととは、違う？

(※5 ジョン・ケージ/1912~1992アメリカ合衆国の作曲家。偶然性の音楽の創始者。)

加藤：どうなのでしょう……。ちょっと違うかもしれないですね。彼らはもっと強烈な自己主張があったというか。「新しい手法はこうなんだ」「俺が時代を作っていくんだ」ということを高らかに訴えていたというのはあったと思います。僕たち現代の作曲家は、そういうのではないかもしれない。

田中：社会にどうこう、というのはない？

加藤：いや、曲によっては直接的に訴えるものを作ることもありますよ。ケースバイケースです。ただ、自分の主張、自分の興味のあるものを置いてまで、社会に媚びたり、訴えを強烈に出したりという必要性は、あまり僕の場合はない。ところで田中さん、作曲してみましようよ。面白くて、わかってくれると思います。今日は用意してきました。



加藤：このような方法で作った曲に全く感情はないけれど、とても「面白い」。そして「わかりやすい」から、誰かに訴えたい。これと同じなんです。感情の表出よりも、理屈は自分の論理であるから、この発想を訴えたい。また、これを出発点として、自分の作りたい音の世界を作る。理屈や論理の中から、今まで自分の中に無かった音を発見できる。そして、「これってどうして作ったの?」「なんでこうなったの?」と聞かれたときに、自分の論理を説明したくなる。そして、その説明が出来るし納得させることができる。僕がもし誰かに説明されたら、「へー!面白いね!こんなこと考えたんだー!」となる。こういうことに魅了される人もいます(笑)。ただただわからない

い、難しい、ではなく、こういう理屈や論理を知った上で面白い、面白くない、わかる、わからないというようにならないと、いわゆる芸術またはカルチャーは育っていかないのではないかと思います。

2016.10.31 純喫茶モネにて

撮影 Kouichirou Hayashi

突然!?

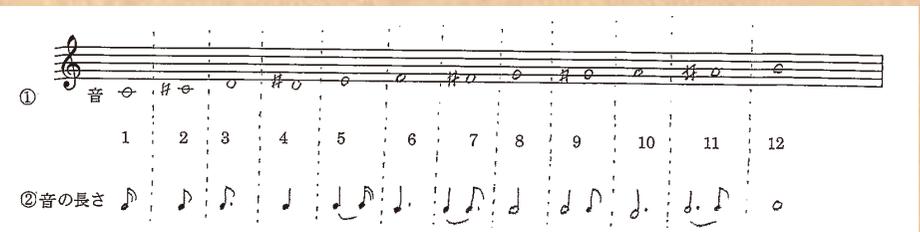
作曲にチャレンジ!

~ブーレーズ風の手法を用いて~



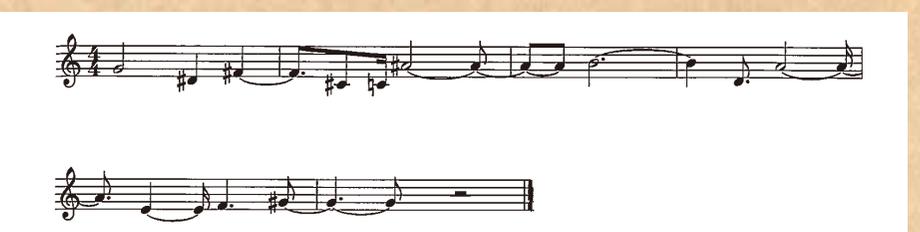
QRコードより音源を聴くことができます。
<https://youtu.be/lc0y9qaeaZw>

- ① 1オクターブの中にある12音に番号を付ける。
- ② 音の長さを12種類決め、番号を付ける。



- ③ 小さな紙1枚ずつに1~12までの数字を書く。
- ④ ③で12回くじ引きをし、引いた数字を引いた順番にメモする。
(今回引いた順番8-4-7-2-1-11-12-3-10-5-6-9)
- ⑤ メモしたランダムな数字に①②を当てはめる。
- ⑥ 拍子を決める。(今回は四分の四拍子)
- ⑦ 楽譜に書き起こす。
- ⑧ 完成!

8-4-7-2-1-11-12-3-10-5-6-9



インタビュー後記

現代音楽の作曲法を用いて実践し、ようやく、現代音楽が「作曲家からしたらわかりやすく、一般の聴き手からしたら難しい」ということの本当の意味がわかった気がします。作曲法を教えてください、曲を作っている時の加藤さんがとてもいきいきしているのが印象的でした。ありがとうございました。

構成・文責/山上由布子

加藤 昌則(かとう まさのり) 作曲家・ピアニスト



神奈川県出身。東京芸術大学作曲科を首席で卒業し、同大学大学院修了。在学中より自作自演による活動を始め、コンクール等にも自演により入選、入賞の経験を持つ。作曲家としても、東京芸術大学打楽器アンサンブルコンサートの学生公募作品の代表として選ばれ初演された他、アジアミュージックフォーラム韓国公演に日本代表として参加など、実績を積む。活動は、その後海外にも向けられ、ロンドンのセント・ジェームス教会(イギリス赤十字社主催)や、イタリアなどでも自作品によるコンサートを開き好評を得る。いわゆる「現代音楽」とは全く異なる視点で書かれた、美しく斬新な抒情性に満ちた作品は、多くの愛好者を持っている。独自の視点、切り口で企画する公演や講座などのプロデュース力にも注目を集めている。2016年4月よりNHK-FM「鍵盤のつばさ」番組パーソナリティーを担当。

ROCCO SATOSHI(ロコ・サトシ) ウォールペイントアーティスト



1970年代後半、桜木町東横線高架下で不思議なシルエットの壁画を描き始め、現在ではウォールペイントの創始者として周知されている。'89年横浜博覧会で最大級のパピリオンをペイント、新本牧地区、みなとみらい21地区、横浜ポートサイド地区など、横浜のシティ・キャラクターを形成する重要な景観に作品を提供。'95年には市営バスのペイントが話題を呼んだ。民間からも数多くの壁画などの依頼を受ける。'95年より彫刻の森美術館に作品を常設。渋谷同潤会アパートのイベント、表参道の大壁画を担当。一方、'90年よりカリフォルニア州・サンディエゴ市に拠点を構え、その活動に対し、同市長より謝意宣言書が発表されている。ポップ・マレー生誕50周年記念コンサートでは平和賞受賞。その年のアートオブザイヤー・ベスト10に選ばれた。'99年に横浜市文化賞奨励賞 芸術部門賞受賞。作家活動と並行してさまざまなワークショップを行う。特に、街と学校と家庭とのつながりを深めるため、父兄、教職者、自治体などと話し合いを重ね、美術を通して子供たちの生活や学校の環境の改革に力を入れている。

さくらプラザ
自主事業
レポート
1

★夢いっぱいシリーズ Vol.1★
★0歳児も夢中★
親子ふれあい♡
歌あそび&パネルシアター

2016年
11月4日(金)開催
さくらプラザリハーサル室

小さなかわいいお友だちが
たくさん来てくれました♪

さくらプラザで初めての未就学児を対象にしたイベント！
どのくらい集まってくれるのかドキドキしていましたが、予約開始から10日で定員となりました。
ご来場いただきましたご家族の皆さま、ありがとうございました！お楽しみいただけましたでしょうか？
満員のためご参加いただけなかった皆さま、ごめんなさい…
また今後も開催していけるよう進めていきますね。
スタッフもかわいいお友だちにメロメロな1日♪ 当日のにぎやかな様子をご紹介します。



講師は「竹田 えり」さん
NHK 子供番組「うたってゴー」の歌のおねえさんとして
出演後、アニソン歌手・声優・作曲家として幅広く活動
しています！ お母さんの気持ちをうたったピアノ弾き語り
も披露してくださいました。「生まれてきてくれてありが
とう」そんなメッセージが込められた歌詞にホロリ。



マットや椅子に座って一緒に手遊び♪
「バスにどんな動物さんが乗ってるかな〜？」「キリンさん！」と元気に答えてくれます。
乗っている動物さんがわかったところで、お膝に乗りユラユラ。みんなが良く知っているバスの歌！
右にまがったり、左にまがったり、急ブレーキ！！
みんなかわいい★



大きな風船が登場！ みんなさわれたかな？
歌もたくさん歌って、からだもいっぱい動かした1日だったね。

お膝にちょこんと座ってくる子、ニコニコして手を振ってくれる子、またみんなに逢えるのを楽しみにしています♪



さくらプラザ
自主事業
レポート
2

PIANO
楽しみ方講座
聴き比べてみよう
～あの名曲をお洒落にアレンジ！～

2016年
10月30日(日)開催
さくらプラザリハーサル室
今でも歌い継がれている歌、童謡
にアレンジを加えてみたら…

アメリカ民謡の「Amazing Grace」。転調をしていく度に、演歌風、ジャズ風、ワルツ とどんどん変わっていきます。「こんなリズムもあるのね。」「やっぱり元の曲が素敵。」などいろいろな意見があると思います！アレンジというと、難しいようなイメージがあると思いますが、新たなピアノの楽しみ方として身近に感じてもらえたら嬉しいです。



作曲家、ピアノ奏者である講師の「小林 滉三」さん。
どのように作曲していくのかなど、作曲家ならではの
お話も交えつつ、秋にちなんだ曲を演奏。



「聴いていて楽しく会話も良かった。」「とても勉強になった。
某音楽番組より数倍楽しかった（！）。」などのお声をいただき
ました。ご来場いただきました皆さま、ありがとうございました。

さくらプラザ
自主事業
レポート
3

クリスマスワークショップ forキッズ

かわいい
キャンドルづくり

2016年
11月12日(土)開催
さくらプラザ 練習室4
講師/maikel工房 岩崎舞さん

え？ロウソクって、こんなにやわらかいの？
人の体温で程よく温まったロウソクの板は、まるで粘土のようです。
自由自在にこねて形を整え、土台となるたまご型のキャンドルにデコレーションをしていきます。



想像力を働かせて、自分だけのキャンドルを
作ります。作っている時は真剣そのもの！
イメージ通りに作れたかな？



完成したら、最後の仕上げは先生と！
壊れないようにコーティングを
して、火を灯す芯をチョッキン！
はい、出来上がり！



できあがり！

クリスマスには手作りキャンドルを飾って楽しんでくれると
うれしいです。もったいなくて、火はつけられないかも…！？

戸塚出身！
ソプラノ歌手・市原愛の連載コラム

歌の翼に

Vol. 5

私の第二の故郷であるドイツ・ミュンヘンは、夏が終わるとあっという間に冬に突入します。住み始めた2003年には、なんと10月から雪が降ったりして……。異国での初めての独り暮らし、そして太陽も出さず寒い毎日……。一見ネガティブな思い出のようですが、これを体験することは私の歌手人生において、とても重要だったと思っています。

というのも、ドイツ・リート詩の中には、この暗い孤独な世界を詠んだもの、そして春への憧れ、春を迎える喜びを詠んだものがたくさんあるのです。様々な詩の世界を、想像だけではなく、実際に自分の中にある感情の一部として、より深く理解する手助けになっていることは、留学の1番の収穫といえるでしょう。

このコラムでも事あるごとに「ドイツ・リート」について触れていますが、もともとそれに惹かれて歌の世界へ飛び込んだ……という訳では全くありません!! (笑)

むしろ(日本の多くの聴衆の皆さまと同じで…?)リートは地味で、生真面目で、面白くないと思っていました。

オペラ・アリアのほうが盛り上がるし、大きな声や高い声を出せるし……。

そんな私でしたが、コンクールの課題曲として高校3年生の時に初めて、シューマン作曲の『ミルテの花』から“きみは花のよう”を勉強することになりました。

この曲は前奏が短く、とても繊細で緊張感のある“P”(弱音)で歌い出さなければならぬので、今の私なら、コンクールの様な場で披露する勇氣は到底ないのですが、「声に合っている」(曲全体に中音域を使って書かれているので、当時メゾ・ソプラノだった私には確かにちょうど良かった)、「この曲を選ぶ人はきっと少ない」などの理由で、恩師の児島百代先生が選曲をして下さいました。

このコンクールが、現在では70年の歴史を重ね、多くの音楽家の大きなファースト・ステップとなっている全日本学生音楽コンクールだったのです。

その時はまだ、詩の素晴らしさやドイツ語の魅力にのめり込む程には至りませんでした。ピアノ伴奏と歌の掛け合いが面白いなあと感じたのを覚えています。(いま思えば…実はこれは、ドイツ・リートにおける最も重要なポイントなのです!)

このコンクールで伴奏を下さったのは日比谷友妃子先生で、美しく優しい音色でいつも私を導いて下さり、光栄なことにコンクールでは全国第1位を受賞する事が出来ました。

まだまだピアノも諦めずに頑張っていた高校生の頃だったからこそ気付くことの出来た、ピアノとのアンサンブルという意識……いや、弾いて下さったのが日比谷先生でなければ、気付けなかったのかもしれない。

来年5月3日には先生の指導歴50周年を記念した演奏会が王子ホールで行われ、私も出演させて頂く予定です。

市原 愛



市原 愛 Ai Ichihara

東京藝術大学を経て、ミュンヘン国立音楽大学大学院に学び、その後ミュンヘンのプリンツレグンテン劇場、パイロイトの辺境伯歌劇場、バーデン州立歌劇場、アウグスブルクのゲグギンゲン・クアハウス劇場、アウグスブルク歌劇場(専属ソプラノ歌手)、ハンブルガー・カメラータ、ミュンヘン放送管弦楽団に客演。国内では、読売日響、都響等との共演やリサイタルなどで活躍。2013年12月のトリノ 王立歌劇場日本公演ではヴェルディ「仮面舞踏会」でオスカル役に、2015年2月~4月には錦織健プロデューサー・オペラVol.6「後宮からの逃走(モーツァルト)」の全国ツアーでブロンデ役に起用され、その歌唱力と演技で聴衆を魅了した。

2015年10月にファーストアルバム「歌の翼に」(オクタヴィアレコード)をリリース。

■オフィシャル・ホームページ <http://www.aiichihara.com/>

今号の1枚



ヨーロッパではコンサートホールや劇場だけでなく、こういった石造りの教会で歌うことも多く、冬は本当に寒くて、衣装の上にコートも羽織って歌ったことも何度か……!



あけましておめでとうございます!
2017年もTHE LEAPSと「行ったるチャン」を宜しくお願い致します♡
今回は新春スペシャル! リープスちゃんが戸塚を飛び出し……初の海外公演に挑戦した模様をお届けします!

10月前半、まだ暑さの残る日本・成田空港から楽器と持てるだけのCD、グッズを抱えていざ出発!
目的地はお隣の国、韓国!!!
THE LEAPSが2016年最大の目標にしていた「海外ライブ」の夢が叶う日がやってきたのです……♡



まずは釜山空港へ到着。そこからさらに車で移動すること2時間……音楽フェスが開催される町「康津(カンジン)」に到着しました!(位置的に長崎県の真上くらいの場所にある町) 康津の街には国が建てた音楽学校(レコーディングスタジオや、ホールもある!)があり音楽を通した「街づくり」事業が進んでいる場所でもあります。なんか、私たちの住む戸塚区と通ずるものを感じる!!!



今回出演するのは「OGAMTONG CAMP ROCK FESTIVAL」というかなり大きいライブイベント! 3日間開催される中でメインアクトとして出演します! イキナリ豪華だけど……リープスちゃん大丈夫?! 「アニョハセヨ〜!」(こんにちは!)「ウリヌー、ザ・リープスイムニダ!」(私たちはTHE LEAPSです!)

実はMCを全て韓国語で話すという(カンペを見ながら笑)特訓をしてライブに臨みました! お客さんにも大好評! そこからさらに距離が縮まり……世代や国境も越えて音楽で一つになる感動がそこにはありました……(泣)



ライブ終了後はリープスグッズと一緒にこの「情報誌SAKURA」もお届け! 韓国の皆さん、一生懸命読んでくれました! ありがとう♡
ライブの合間には観光も……! 歴史あるお寺へお参りへ行ったり…… 韓国の伝統的なお家を見学したら……お家のお母さんが「せっかく来たんだからおおがりなさいな!」と優しく迎え入れてくれたり……嬉しい出会いもたくさんありました。

そして最終日は光陽(クオンヤン)にあるライブバーにて…… 韓国の最強ガールズバンド「Walking After U」とのツーマンライブ! オープンと同時にお店はすでに満員!!! ただならぬ熱気が漂います☆ フェスに出演したTHE LEAPSを見て「もう一度見たい!」と来てくれた人。噂を聞き駆けつけてくれた人。この日は本当に「多国籍」なフロア! 色んな国の人がTHE LEAPSのロックンロールと一緒に歌って踊って、楽しんで……最高の夜になりました。

まだまだ夢の途中! 2017年のTHE LEAPSにもどうぞご期待下さい! さあ、次回はどこへ行ったるチャン!?



THE LEAPS(ザ・リープス)

横浜市戸塚区出身。幼なじみ同士のGt&Vo.MAYOUとDr&Vo.NANA-Aからなる2ピースバンド。2017年2月で結成5周年! 戸塚をふたりを見かけたらお祝いでね。3/4から春の全国ツアーもスタート!
■オフィシャルホームページ <http://theleaps.net>

さくらプラザ
ユーズ・ヴォイス
USER'S VOICE

Vol.10
あとりえ空

さくらプラザをご利用いただいている団体の方の声を毎号お届けするコーナーです。

- 団体名：あとりえ空
- 団体活動歴：15年目
- 2016年10月 さくらプラザギャラリーで作品展を開催



代表の齋藤薫さん。子どもたちの作品と一緒に。



作品展の様子



QUESTION

1. **どんな活動をしている団体ですか？**
東戸塚にあるこどもの造形教室です。毎週1回アトリエに来てもらい、絵を描いたり工作をしています。
2. **どんな方が参加していますか？**
約30名が参加しています。幼稚園児・小学生対象のアトリエですが、中学生・高校生になってもそのまま続けている子もいます。
3. **活動のモットーを教えてください。**
子どもたちがそれぞれ自由な発想で、ひとりひとりの個性を大切にしながら、何かを作ることで、イメージをかたちにすることの楽しさを感じてもらえるような造形教室がモットー。月ごとにテーマ(カリキュラム)を設けています。
4. **さくらプラザを選んだ理由、おすすめポイントを教えてください。**
今回3回目の利用でしたが、会場が明るくきれいで戸塚駅からも近いので、観に来てくださる方にも便利なところ。また、可動壁の設置などさくらプラザ側で準備してもらえる部分と、主催者側で任せてもらえる部分がはっきりとしていて、展示・片付けなどの作業がしやすいことも理由です。

さくらプラザ自主事業 ミニレポート

さくらプラザ クリスマスツリー点灯式 2016
電子オルガンによるミニコンサート
2016年11月11日(金)開催

ホール・エントランス ステンドグラス前

毎年恒例! 点灯式の時期がやってきましたね。今年のさくらプラザ点灯式は一味違います! 電子オルガンによるミニコンサートが行われ、いつもに増して華やかです。



さらに! 高さ3メートルのツリーに明かりを灯すべく、戸塚区のマスコットキャラクター・ウナシーがやってきてくれました! 子どもたちも大喜び。

オルガン演奏が始まると、あたりは一変。まるで教会にいるよう……。静寂の中をオルガンの荘厳な響きが包み込みます。小さなお子様から大人の方まで、心癒される一時を過ごしていただきました。ご来場いただき、ありがとうございました。



明かりの灯ったツリーの前で演奏する川越さん



かわこえみなみ 演奏/川越 南美さん(オルガニスト)

中学生がさくらプラザにやってきた!
～職業体験学習～
2016年11月4日(金)

戸塚中学校2年生の男女4名が、さくらプラザへ職業体験学習に来てくれました! 当日は主催公演「親子ふれあい歌あそび&パネルシアター(P.10にレポート掲載)」が開催されたため、まずはチケットもぎりや会場の案内を体験☆ その後は舞台スタッフの案内のもと、スポットライトを動かしたり、マイクで声を出してみたり……。実際に仕事に就くのはまだ先かと思いますが、いろいろな人に挨拶をする、働く人の姿を見るときこの経験がいつか生かせるように!



予告 さくらプラザ 1日舞台スタッフになってみよう!

普段見ることのできない舞台の裏側を、スタッフの解説付きでご案内! 特別ミニコンサート付き♪
2017年3月23日(木)15:00～16:30
小学生以上対象 ※小学校1～3年生は保護者同伴必須
参加無料/定員 先着15名[1月18日(水)14:00より電話予約開始]

男は背中
は物語る
トツカミカエリオヤジ
戸塚見返親仁

商店のご主人など、戸塚区内で働いているオヤジ世代をご紹介します。

其之
二十一

前号の後ろ姿は…

「株式会社ナウ フィールド」の
今野 明です!



顔見世

戸塚区総合庁舎向かいにあるカットサロン「ゼロワン」戸塚店をはじめ、女性専用シェービングサロン、居酒屋を経営する今野さん。「ここにこういう店があって本当に良かった」と言ってもらえるお店を目指しています!

「毎日お忙しいでしょうが、リラックスできる瞬間はどのような時ですか？」

俺のリラックスできる時間は、考えている時(笑) 積極的になれる方法、楽しいことを考えているよ。絶対ポジティブでなくては行けないね。マイナスになるような心配事とか、取り越し苦労とかは極力しない。氣っていうのは、すごく大事で、プラスの氣、マイナスの氣、病氣、嫌氣、いろいろあるが、常にプラスの氣を発していなければいけない。生きているから大変なことでも悩むこともあるけど、大丈夫だと思えば変えられる。簡単な話「大丈夫だよ!」

お客さんにとっての利益は、安くて良い仕事。スタッフも正しく評価されてそれが給料として評価されるのは喜び。あとは利益。利益は取りすぎではいけないけれども、なくては行かない。この3つで正確な三角形をいつもイメージしているとのこと。とても気さくな今野さん。なごやかな雰囲気の中にも、「お客様の為」という強い気持ちが伝わってきました。

親仁に逢いにしよう!

ゼロワン 戸塚店

横浜市戸塚区戸塚町 16-9
戸塚駅西口から徒歩1分
TEL:045-862-6134



次号の親仁は・・・?

出張!
戸塚新聞

webマガジン「戸塚新聞」の出張版。戸塚区のディープな情報を鋭意取材中! 詳しくは「戸塚新聞」で検索!

#06 食 カレーとナンが最強だ
インド料理店「Chai」

戸塚でも人気のインド・ネパール料理のレストラン、ご存じ「Chai チャイ」。電話で取材を申し込んだはいけれど、一抹の不安が…「ワカリマシタ、ダイジョウブデスヨ!」。念のために訪問して名刺を渡すと、やはり取材の話は通じていなかった…。

ホール係はイケメンのお兄さん。日本語がいたいOK! よく気配りし笑顔でサービスしてくれるので、好感度高し。アピタ前の通りから入りやすい雰囲気です。

店内は赤をメインとした内装。天井には青空が広がっていました(笑)。2人テーブルや4人テーブルが配置され、全部で30席あります。ガラス越しに調理場が見えます。お2人でジャンジャカと料理が行われ、取材用にお任せで作っていたら、どんどん料理が出てくるわ…。ランチはカレーの種類に応じてA～Eまで720円～950円の価格帯。辛さは5段階から選べます。サラダとソ

フトドリンクがつき、プレーンナンorライスはかわりできます。チャイスペシャルセット:1250円。カレー2種類(バターチキン・日替わり)。カレー2種類(バターチキン・日替わり)、ナン・ライス、サラダ、タンドリーチキン、ガーリックティッカ、ソフトドリンク)、人気どころが味わえるランチタイムの大満足なセット!!…続きはwebで

戸塚新聞 Chai 検索

TOTSUKA JOURNAL



今回取材したお店

Chai チャイ

戸塚区上倉田町498-13
司ビル1F
TEL:045-869-6578

Information

「戸塚新聞」とは

戸塚区の情報満載のWebマガジン。知っているようで知らない「戸塚」の魅力的な情報を発信。戸塚新聞のすべての記事を読みたい人は「戸塚新聞」で検索!

戸塚新聞 検索



隔月、金曜夜8時、ベートーヴェンのピアノの調べに酔いしれる。

若林 顕セルプロデュース
ベートーヴェンピアノ・ソナタ 全32曲

各公演ともに全席指定 前売 2,000円/当日 1,500円
学生 1,000円

Vol.17 1/13(金)

Vol.18 3/17(金)*

各回20:00開演

***…アンコール公演**

3年目を迎えた「ベートーヴェンピアノ・ソナタ全32曲」シリーズの中で、好評を博した曲を再び演奏します。

*Vol.19以降の公演情報は2月頃公開予定です。



©Wataru Nishida

名ヴァイオリニスト鈴木理恵子がお届けする、極上の室内楽シリーズ

鈴木理恵子 室内楽シリーズVol.6
ザルツブルグノスタルジア
モーツァルトからのメッセージ

鈴木 理恵子(Vn)

若林 顕(Pf)

2/18(土) 14:00

全席指定 一般 3,000円

ペアチケット 5,000円



©Wataru Nishida



©Ken Wakabayashi

新春さくらプラザ寄席

「泣く落語」～其の四 八五郎出世～

橘家文蔵、入船亭扇辰、柳家小せん、
春風亭朝也、翁家和助

1/12(木) 14:00

全席指定 一般 2,500円/市民 2,000円



ピアノグランプリ受賞記念演奏会

～さくらプラザ・サポートアーティストとともに～

2016年3月20日に行われた「ピアノグランプリ2016」の

受賞者(村瀬 豊江、植松 洋史、

ピアノデュオFF)、

さくらプラザサポートアーティスト

(早淵 綾香/Vn、大澤 理菜子/Vn、

樹神 有紀/Vla)

※賛助出演 田辺 純一(Vc)

1/22(日) 14:00

全席指定 1,000円



名曲サロン Vol.6「とつかシューベルトアデー」

～若き演奏家が奏でる シューベルトの世界～

菊地 美涼(Pf)

2/8(水) [第1回] 11:30 / [第2回] 14:30

全席自由 500円

会場: さくらプラザ リハーサル室



JAZZ NIGHT with Grace Mahya & 渡辺 裕之

Grace Mahya(Vo/Pf)、渡辺 裕之(Dr)、

楠井 五月(Ba)

3/24(金) 19:00

全席指定 一般 3,000円

ペアチケット 5,000円



新たな出会いが生まれる3日間!

さくらプラザアートバザール 2017

ギャラリー: 3/3(金)～3/5(日)10:00～17:00(最終日16:00まで)

ホール: 3/5(日)14:00～16:00 他



とつかストリートライブ 春フェス2017

とつかソングコンテスト

3/11(土)13:00～17:00 予定



予告 2017年4月からのコンサート予定

※現在の予定です。タイトル・内容等に変更になる場合がございますのであらかじめご了承ください。

前橋 汀子 Vol.7 ヴァイオリン 珠玉の名曲集3 4/15(土) ※抽選申込終了

名曲サロン Vol.7 チェロが奏でる春の訪れ 4/20(木)

市原 愛 ソプラノ・リサイタル 4/29(土・祝)

ロバの音楽座 5/3(水・祝)

NAOTO アコースティックデュオ・コンサート 5/27(土)

奥村 愛 & 大萩 康司 デュオコンサート 6/24(土)

ほか



ロバの音楽座

NAOTO

3年半前に戸塚に引っ越してきて、銭湯がいつ営業しているのか気になっていました。「戸塚見返親仁」で紹介されているのを見て、自分が生まれるずっと前からあり、家族で運営している銭湯だと分かり親しみが沸きました。薪湯だからこそ大変さと、ごひいきのお客さんの満足度が喜びに繋がっていることを想像しました。私も「矢部の湯」の毎日の仕事に思いを馳せて応援したい気持ちになりました。【ペンネーム: 春野葉桜】

掲載された方には、お好きなさくらプラザ主催公演
チケット*をプレゼント!

*ご希望に沿えない場合もございます。あらかじめご了承ください。

●氏名 ●掲載用ペンネーム ●ご住所 ●お電話番号 を必ず記載の上、郵送もしくはメールにてお送りください。

※ご記入いただいた個人情報は、当コーナーの目的以外には使用いたしません。※200文字程度におまとめください。

※誌面の都合上、原稿を一部修正させていただく場合がございます。

戸塚区民文化センター さくらプラザ

TEL: 045-866-2501 FAX: 045-866-2502

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16-17戸塚区総合庁舎 4F

http://www.totsuka.hall-info.jp

event@totsuka.hall-info.jp

編集後記 さくらプラザでは現在4月以降の企画
真っ只中! 早くみなさまにお知らせできるよう鋭意
進めております。詳細をお楽しみに! (桑田)



Vol.21
1・2月号

